



肥料を節約して環境に優しい野菜づくり



畑で野菜を育てる時、従来は畑全体に肥料をまいた後に耕うん、うね作り（うね立て）を行い、そこに野菜の苗を植え付けるのが一般的な方法でした。今回は最近開発された、肥料を節約して野菜を育てる技術のお話です。

開発した技術は、機械を使って、うねを作ると同時に、うねの中で作物の根が広がる範囲の土だけに肥料や農薬を混ぜ合わせる技術です。広い土地を使ってキャベツ、ハクサイなどを作る時に、化学肥料や農薬の使用量を減らすことができます。

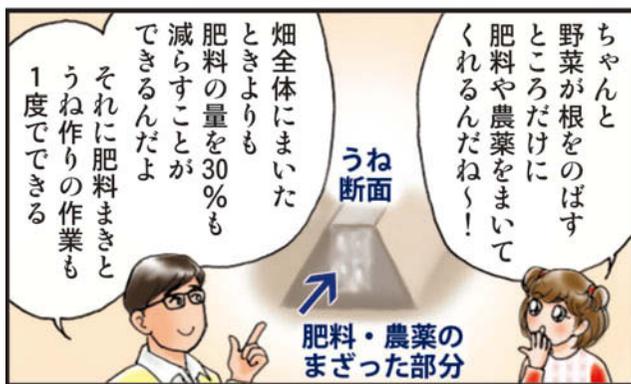
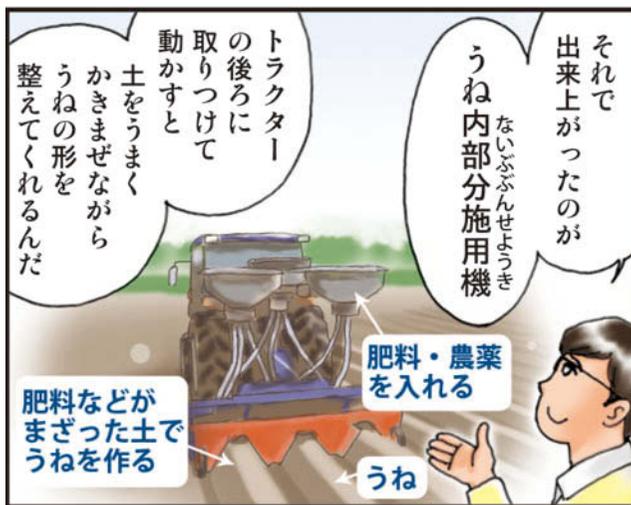
土に混ぜる肥料の量をこれまでより30%削減しても十分に育ち、これま



でと同様の収量を得ることが出来ます。

また、土の中に残った肥料の成分が周囲に流れ出すのを防ぐことができます。肥料の量を減らすことで、安い経費で野菜作りができます。

◆うね内部分施用機



うねの中で肥料や農薬を混ぜ合わせる作業を能率的に行うため、「うね内部分施用機」を開発しました。

この機械は、トラクターの後ろにつなげて動かし、ついている装置で肥料などを土とかき混ぜた後、うねの形を整えます。これにより、肥料などを、うね上部中央の作物を植える位置の近辺に集めることができます。また、

これまで2回に分けて行っていた肥料まき・うね作りの作業を、1回の作業ですませることが出来ます。

うね内部分施用機は2008年から市販されており、全国の野菜農家で使われるようになっていきます。